

こぼれ話7

日野市のどんど焼きあねいね

お正月が過ぎると、市内の各所で、どんど焼きの煙を目にするところがあると思います。市内では、現在十五カ所で開催しています。実施団体はさまざまですが、小学校の校庭や郷土資料館でも実施しています。

昔は「サイノカミ」と呼ばれ、子供たちの小正月の行事でした。カヤで作った円錐形の小屋に正月飾りやダルマをつけて燃やすという行事ですから、現在は大人の手で、消防署の許可を取って行われます。どんど焼きの火であぶった繭玉団子を食べると風邪をひかないとか、書初めを燃やすと上達するといった言い伝えがあります。

晴天の冬空に、勢いよく燃える火と、パンパンとはじける竹やダルマの音は、冬の風物詩としても良いものです。煙が迷惑と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、一度近くのどんど焼きを見に行かれてはいかがでしょう。

